

(別紙様式6)

## 平成 28 年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分:  萌芽的異分野連携共同研究  共同推進研究  
 産学官連携フュージビリティ・スタディ  
 共同研究集会  産学官連携課題設定集会

研究課題名: アメリカの対北極政策と関係諸国の反応—ケプラヴィークへの再関与をめぐる—

研究期間: 平成 28 年度～平成 年度

共同研究員	氏名	所属・職名
研究代表者	齊藤 孝祐	横浜国立大学 特任准教授
研究分担者(拠点外)	川名 晋史	笹川平和財団 研究員
研究分担者(拠点内)	高橋 美野梨	北海道大学 助教

### 【研究の内容】

本研究は、近年、米国がいったんは撤退したアイスランド・ケプラヴィーク航空基地に対して再関与の動きを見せている状況に着目し、①米国が北極域における安全保障環境の変容をどのように認識し、②それにいかなる形で対応しているのかを、周辺関連諸国との関係性の変化に着目しつつ明らかにすることを目指した。これらを踏まえたうえで、③北極域における安全保障環境の変動、ならびにそれに対する関連諸国の政策変容を理解するための理論的枠組みの検討を進めた。2016年11月～2017年2月の助成期間中、本グループでは次のような研究進捗・体制拡大につながる成果を得ている。

#### (1) ケプラヴィーク航空基地に関する米国の政策動向の把握

当初計画ではアイスランドの現地調査を行う予定であったが、それに先んじて米国側の政策動向を把握することで目的達成のためのプロセスを効率化することができるとの判断から、2017年1月上旬にワシントン DC での資料調査を実施することとした。これにより、近年観察される北極域の安全保障環境の不安定化が、同地域の経済的ポテンシャルをめぐる周辺諸国間の利害対立のみならず、米ロ間の冷戦型パワー・ポリティクス of 再活性化に規定されており、特にケプラヴィークをめぐる米国の政策動向にはその傾向が強くあらわれているとの暫定的結論を得た。

#### (2) 米ロ関係の変容と北極域安全保障の活性化との関連性に関する考察

上記に関連して、北極域の安全保障をめぐる新たな秩序形成問題を理解するにあたり、米国、ロシア、及び周辺各国がそれぞれの戦略や内政事情を背景に、北極域の安全保障環境をいかに認識し、行動に反映させているのかを明らかにすることが必要になるとの示唆を得た。こうした問題の射程拡大に対応するために、2017年1月下旬にロシア安全保障の専門家である小泉悠氏（未来工学研究所）との意見交換を実施し、本研究テーマと近年のロシア動向との接続を試みた。なお、以上の検討を踏まえて、小泉氏を今後の北極域安全保障研究プロジェクトへの参画を正式に依頼し、共同研究体制を拡大することで合意している。

### (3) 今後の成果公開に関する取り組みの開始

本研究の結果に別途進行中の複数プロジェクトの成果を組み合わせ、来年度後半をめどに下記のような形で成果を公開することを目指し、出版社等との調整を開始した。なお、2017年度には高橋がデンマークにおいて長期在外研究を計画しており、英語での成果発表についてはこの間に現地での調整を進めることを計画している。

- ・ 北極域を含む国際的な権力構造の現代的変容問題に関する日本語書籍の出版（共著）
- ・ 北極域の安全保障に関する英語書籍の出版（共著）
- ・ 北極域の安全保障、特にケプラヴィーク／チューレをめぐる基地問題に関する国際ワークショップ（Aalborg University, Denmark）

#### 【研究論文や著書等】

1. 高橋美野梨『北欧文化事典』（「北極をめぐる政治」、「グリーンランドの政治経済」「グリーンランドの対外関係」を担当、丸善出版、近刊予定。
2. 高橋美野梨「書評：『沖縄と海兵隊：駐留の歴史的展開』（旬報社、2016年）」『境界研究』、近刊予定。

#### 【研究発表】

1. 高橋美野梨「国際関係のなかのグリーンランド—対外的影響力をめぐる研究から自然科学との協働に向けて—」ArCS 意見交換会、於：北海道大学東京オフィス、2016年10月18日。
2. 齊藤孝祐「国際安全保障環境の変容とグリーンランド—北極圏を見る国際政治学的視点—」北海道大学低温科学研究所平成28年度研究集会（グリーンランド）、2016年12月20日。
3. 齊藤孝祐「米国による北極域戦略の現代的変容および政策過程—チューレ空軍基地およびケプラヴィーク航空基地をめぐる—」北極域安全保障に関する意見交換会、於：北海道大学東京オフィス、2016年1月23日。
4. 高橋美野梨「島と自治」ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟（LM地議連）、於：沖縄県、2017年1月28日。
5. TAKAHASHI, Minori, “Participating in International Negotiations as an Internal Constituent: the Debate regarding Greenland's Role in the US Missile Defense,” ASSW: Arctic Science Summit Week 2017, Czech Republic. （2017年4月5日を予定）。

#### 【アウトリーチ、取材、その他】

1. 小澤実・中丸禎子・高橋美野梨『『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための65章』を振り返って—北欧・極北研究の現状と展望—』編集者座談会、於：東京理科大学神楽坂キャンパス、2017年2月1日。（齊藤孝祐はアウトリーチの一環として、当該書籍の分担執筆者の立場で参加。）